

校訓 「高い理想 清い心 熱い想い」 文責 校長 中原弘之

学校教育目標 「学校と地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」

どんと焼き

1月9日（木）にPTA主催で「どんと焼き」が行われました。風もほとんど無い絶好の天気となり、高さ約2mのやぐらに点火しました。煙が広がり荘厳な感じがしました。子どもたち並びにご参集いただいた皆様方の「無病息災」を祈る、伝統行事として継承されていくことを願っています。

早い時間から、ぜんざいやきなこ餅、しょうゆ餅の準備をしていただいたり、やぐらの準備をしていただいたPTAの方々から心から感謝申し上げます。また、万が一の火災に備え消防車共々見守っていただいた消防団の方々、たくさんご参加いただいた地域の方々に厚く御礼申し上げます。

折り合いをつける

「折り合いをつける」とは、交渉において、互いにある程度譲り合って双方納得できる妥協点を定める場合などに使われますが、交渉でなくても、私たちは日常的に折り合いをつけながら生活をしています。大人も子どもも、円滑な人間関係を築いていくために大切にしていきたい心がけです。

祇園歴史の旅（その55）「軍港の設備が充実する」

佐世保市教育委員会編集・発行 小学生向け歴史副読本『ふるさと歴史めぐり』2016年 第6版（改訂版）から引用。

「明治の終わり頃から大正時代にかけて、佐世保軍港は、軍艦の建造や修理、さらに補給のための施設が次々に造られて充実していきました。立神町や平瀬町の自衛隊やアメリカ軍の基地にあるレンガ倉庫群はそのほとんどがこのときに建てられたものです。なかでも最も大きなものは、1906年（明治39）に建設が始まった立神係船池（旧修理艦船繋留場）です。これは、二つの島を取り込んだ、縦363m、横576m、水深約10mの巨大な構造物です。1万トンクラスの船なら、同時に9隻もつなぐことのできるアジア最大の係船池で、着工から10年後の1916年（大正5）に完成しました。今から90年以上前に、人工衛星からの衛星写真にも写る土木工事を行ったとは驚きです。係船池の周りにはクレーンも造られましたが、最も大きな250トンクレーンは、イギリスに特注されたもので、1913年（大正2）に完成しています。このタイプのクレーンは日本に3基、世界でも13基しか残っていない貴重なもので、2013年（平成25）に国の登録有形文化財となりました。」

＜嗚呼四十三号潜水艦＞

「佐世保が海軍基地となり多くの軍艦が入り出すようになると、やはり、軍艦の事故が何度か起きている。特に市民の涙を誘ったのが、1924年（大正13）に起こった第43号潜水艦の沈没事故だった。佐世保港外で行われた演習中に、第43号潜水艦が巡洋艦龍田と接触して沈没。船長以下45名の乗員は、生きながら海底に閉じ込められてしまった。ようやくつながった電話からは救助を求める悲痛な声が響き、救助隊は焦りを募らせたが、30mの水深と早い潮流に阻まれて救助作業は難航し、事故発生から十数時間後、「早く、早く…」との声を最後に艦内からの応答は途絶えた。沈没から24日後、ようやく引き揚げられた艦内には各自持ち場についたまま息絶えた45名の遺体と、多くの遺書が残されており、見る人の涙を誘った。この事故は歌にもなり、沈没地点望む鵜渡越には白亜の慰霊碑が建てられ、永く語り継がれることになった。」

次回は、「戦争の時代」と題して、佐世保空襲などをご紹介します…。